

たたかいと組織を前進させて 全国大会・道大会を迎えよう

第40回道本部委員会

6月28日、第40回道本部委員会を開催して2020年春闘の到達点をふまえ、第22回全国大会と第21回道本部大会にむけたとりくみの方針を決定しました。今回の道本部委員会は、新型コロナウイルス感染防止対策として、道本部委員については「委任状」を認める措置をとり、委任状をふくむ委員の参加は26人（出席10人・委任状16人）と道本部役員11人が出席しました。

森国委員長はあいさつで「コロナ禍の中で、医療現場や学童保育、物流など社会的に必要な仕事で建交労の仲間たちががんばっている。安倍政権に対する国民の批判が強まり、検察庁法案が廃案となり、補正予算案が修正されて国民すべてに10万円が配られて雇用調整給付金も増額された。イージスアショア配備も断念させるなど政権を追いつめている。安倍首相はコロナ対策を議論すべき国会を閉じて逃げた。全国大会と結成20年となる道本部大会に向けて要求闘争と組織拡大に奮闘しよう」と強調しました。

提案された議案にもとづく討論では、札幌学童保育支部の原委員が「コロナによる休校で子どもたちは不安をあおられてストレスが強まっている。2次被害を防ぎ、分断を許さないことが重要だ」と発言しました。また札幌合同支部の稲葉委員は青年部のとりくみについて発言し「例年の『反核トラックキャラバン』に代えて全国青年部がとりくむ『反核キャンペーン2020』を成功させよう」と訴えました。

宮澤書記長はまとめて「コロナ禍の中でも自粛せずに粘り強い交渉で要求を大きく前進させてきた仲間がいる。労働組合の存在意義を示し、仲間を増やして道本部大会を迎えるようともに奮闘しよう」と呼びかけました。

東京都知事選 宇都宮けんじ候補の推薦・支援を決定

6月27日に開催した道本部第3回執行委員会で、東京都知事選挙（7月5日投票）に立候補している元日本弁護士連合会会長の宇都宮けんじ候補（立憲民主党・共産党・社民党などが支持）の推薦・支援を決定しました。

北海道交運共闘第8回総会

コロナから労働者の生活と仕事守ろう

北海道交運共闘の第8回定期総会が6月22日に開かれました。総会は新型コロナウイルス感染防止のため参加者数をしぼり短時間での開催となりました。総会では三上友衛議長（道労連議長）が「新型コロナの影響でタクシーなど交通運輸労働者の仕事と生活の困難が深刻になるとともに公務では『休めない』という事態もある。交運共闘のとりくみが重要になっている」とあいさつしました。提案された議案にもとづいて、自交総連・建交労（ダンプ・鉄道）、国公からの発言があり、拍手で承認されました。

総会では、三上議長（再）、吉根清三事務局長（新・自交総連）などのほか、建交労から森国教副議長、佐藤達雄幹事、竹田吉宏幹事（＝以上再）、宮澤毅幹事（新）が役員に選出されました。